

「この魚 なんとという名前？」

「坂川さかな教室」

学童ら 100 人が参加



「坂川」と「みやぞの野鳥の池」の魚を調べて学ぶ「坂川さかな教室」は 7 月 17 日と 18 日に行われ、八木南小、鯉ヶ崎小の学童ら約 100 人が参加しました。

建設環境研究所の武山上席主任研究員らのスタッフ 5 人が、投網や定置網で捕まえたモツゴ、ボラ、ヨシノボリ、スズキなど 20 種以上の魚が水槽に展示され、集まった子供や親子が珍しそうにのぞきこんで、スタッフに質問していました。

池にはタイリクバラタナゴが非常に多く、



武山さんは「中国から来た外来種のタナゴ。繁殖はヌマガイという二枚貝に卵を産みつけて繁殖する」と貝を見せながら説明。捕まえた魚などの 3 分の 1 が外来種で、「飼ったり簡単に川に放流しないように」と注意。最も大きな魚はハクレンで、全員が



見守る中、坂川に帰って行きました。このあと、魚を捕まえるために使った実際の網を見せながら特徴を説明し、投網については目の前で実演、拍手がわきました。（写真はいずれも宮園 3 丁目・鶴沢敏明さん撮影）

ホタルがたくさん飛びました

野鳥の池では、予想より早く 7 月 6 日に近所の方が最初にホタルの点滅を確認。この後、毎夜続けて幻想的な光が小池で見られ、月末まで続きました。

今年はホタルが元気なためか、池の上でよく飛びます。草の上で光が見えたと思った瞬間に、光の点滅ががふわっと浮かんで、ゆらゆらとした感じで対岸の草むらに着陸。こんな情景が割合に良く見られ、集まった人たちから、そのたびに「飛んだ！あそこだ」などの、歓声が上がっていました。今年は 26 人が幼虫飼育に協力、289 匹が 6 月に放流されました。



予想以上に多かった魚の種類

でも、外来種が3割も

種名	坂川	宮園池	外来種 重要種
コイ	○	○	
ギンブナ	○	○	千葉県D
タイリクバラタナゴ	○	◎	要注意外来
ハクレン	○		国外
ハス		○	国内
オイカワ	○		
ウグイ	○		
モツゴ	○	◎	千葉県D
ツチフキ	○		国内
ニゴイ	◎		千葉県C
スゴモロコ	○	◎	国内
カダヤシ		○	特定外来
メダカ	○		絶滅危惧II 千葉県B
スズキ	○		
ボラ	○	○	
ウキゴリ	○		
マハゼ	○		
ヨシノボリ	○	◎	
ヌマチチブ	○		千葉県D
ヒメタニシ		○	
カヒバリガイ	○		特定外来
ヌマガイ		○	
シジミ		○	
カリヌマエビ	○	○	
テナガエビ	○	○	
スジエビ	○	◎	
アメリカザリガニ		◎	要注意外来
モクズガニ	○		
ウシガエル		○	特定外来
ミシシippアカミミガメ	○	○	要注意外来

(注) ○は確認、◎は特に多い。千葉県とあるは千葉県レッドデータの重要種ランク。その他は環境省指定の絶滅危惧種。国外は、外来だが現在指定されていないもの。国内は、元々分布していないが国内の別の生息地から持ち込まれたもの。

「さかな教室」に先立つ17日、坂川とみやぞの野鳥の池で、建設環境研究所のスタッフによる採取・捕獲調査を実施しました。調整池の魚の実態調査は初めてのことで、調査に当たった同研究所の上席主任研究員・武山直史さんは「思いのほか多くの種類の魚がいるので驚いた」と話していました。調整池の整備が完了して5年になりますが、池の自然環境がかなり回復していることが立証されました。

調査結果の概要は表の通りですが、外来種が多いことに、今さらながら驚かされます。移動や飼育が禁止されている「特定外来生物」が4種いました。その一つは、池で夜毎にうるさいウシガエル、また、カワヒバリガイは坂川のコンクリート壁などについていました。

池に多くいたタイリクバラタナゴは、坂川でも確認されました。タナゴが産卵するヌマガイが池で見つかったので、池で繁殖したタナゴが配水管から坂川に移動していると考えられます。池では、数多くの小さなタナゴが群れをなして泳ぐ様子が観察されました。



タナゴはきれいな魚ですが、環境省指定の要注意外来種。捕まえて他の場所に放流しないことが大切です。また、宮園池に多くいるカメも要注意の外来種、ミシシippアカミミガメと分かりました。外来種は繁殖力が強く、日本在来の生物を駆逐してしまうので、注意が必要です。

~~~~~

### 「水辺フェスタ」の準備、順調に進む

今年の水辺フェスタは10月22日(土)に開催されます。「鱈ヶ崎小音楽部」のほか、「柏お

やじダンサー」、「三姿舞」、さらに新松戸の「五番囃子 新松会」の初出演が決まりました。江戸の粋な神田囃子を聴かせてもらえます。どうぞ、ご期待下さい!